

## レビ記18章「性的乱れからの聖別」

### 1A 異教の風習 1-5

### 2A 近親相姦 6-18

#### 1B 家族の女 6-11

#### 2B 親の姉妹 12-13

#### 3B 兄弟の妻 14-18

### 3A 身を汚す風習 19-23

#### 1B 女による汚れ 19-21

#### 2B 道ならぬこと 22-23

### 4A 吐き出す地 24-30

## 本文

レビ記 18 章を開いてください。私たちのレビ記の学びは、17 章から後半部分、「聖別による歩み」について学んでいます。主が聖いように、私たちも聖くなければいけないというのが、神の命令です。前半では、いけにえによって聖なる神に近づくことを学びました。キリストがご自身を献げられた恵みの中で、自分自身を献げる中で聖なる神に近づくことができます。そしてその聖さの中で、私たちは、聖め別たれた生活を行います。聖別とは、この世において世に属している中から、私たちが別たれて、聖なる神の所有になったということです。この世には生きているけれども、この世のものではない、ということです。

17 章は、礼拝における聖別について学びました。イスラエルの民は、ずっとエジプトに住んでいました。そしてこれから、約束の地、カナン of 地に入ります。エジプトにおいて、彼らはエジプトの偶像礼拝に慣れ親しんでいました。そしてカナン of 地に向かいますが、その地に入れば、また別のいけにえの制度があります。イスラエル人たちが、定められた主の幕屋での礼拝から離れたら、主の名を唱えても、異なる神々を拝んでしまうという危険があることを学びました。私たちも、主イエスの名によって集まる教会から離れて、自分自身でイエスを信じると切り離したら、そのイエスは、聖書の神のイエスとは違う、自分の思いの中の偶像礼拝になってしまう危険があります。

そして 18 章は、周囲の風習にある性の乱れに倣ってはいけないという戒めになっています。異なる神々の礼拝から、いきなり性的乱れについて語られると、何か話が飛んでいると思われると思います。実は深くつながっています。エジプトの風習においても、カナン of 風習においても、神々に献げる儀式が、性的倒錯を含めた行為が含まれているからです。神への礼拝ということで、逸脱した性行為を行います。

日本も決して例外ではありません。風習としては、盆は、仏教の慣わしですが、盆踊りは乱交パーティーでした。見知らぬ男女があたりかまわず性行為を行います。略奪婚も正当化されています。夜這いといいます。目を付けた女を、男が夜に寝ている間に襲って、無理やり自分の妻にすることです。男性器や女性器を異様に拡大させた像は、今でも日本のいろいろなところにあり、お祭りも行われています。

一般の生活では、そのような性的倒錯はタブー視されているので見えませんが、性の乱れは至るところにありますね。その中で、私たちはキリスト者として召されました。テサロニケ人の信者たちに対して、パウロは勧めました。「Ⅰテサ 4:3-6 神のみこころは、あなたがたが聖なる者となることです。あなたがたが淫らな行いを避け、一人ひとりがわきまえて、自分のからだを聖なる尊いものとして保ち、神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、また、そのようなことで、兄弟を踏みつけたり欺いたりしないことです。私たちが前もってあなたがたに話し、厳しく警告しておいたように、主はこれらすべてのことについて罰を与える方だからです。」

#### **1A 異教の風習 1-5**

<sup>1</sup> 主はモーセにこう告げられた。<sup>2</sup>「イスラエルの子らに告げよ。わたしはあなたがたの神、主である。

ご自身がイスラエルの神であることを強調しています。ご自身が父のようであって、あなたがたは、わたしの子たちなのだということを強調しておられます。

<sup>3</sup> あなたがたは、自分たちが住んでいたエジプトの地の風習をまねてはならない。また、わたしがあなたがたを導き入れようとしているカナン地の風習をまねてはならない。彼らの掟に従って歩んではならない。

エジプトの地の風習は、現代の私たちには、衝撃的なものです。ファラオは、ナイル川に向かって自慰行為をします。もちろんエジプトの民が見ている前で行っています。それは、ファラオは神としてあがめられ、その精子は聖なる種とされたからです。それを文明の命であるナイル川に流して、繁栄を願ったのです。エジプトの神々も、自慰行為によって、エジプトが生まれ出た神話になっています。ファラオは自分の半姉妹も妻にしていました。近親相姦は当たり前でした。そして、エジプトの遺跡の古代の落書きには、露骨な性描写のものがたくさん残っています。そして、妻に恵まれない男性は、同性愛行為や獣との性行為も盛んに行っていました。

こう話していきますと、エジプトはなんと野蛮で、非文明的か！と思うかもしれません。いいえ、古代エジプトは当時、最も学問が発達していたところでした。知性において最も優れていた国で、性的に乱れに乱れていたのです。知的な人、知識人が、その知識にかなった行動をするかという

全くそうではありません。パウロは、そうした人々のことを「彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かに」なった、と言っています(ロマ 1:22)。そして偶像礼拝を行い、心の欲望のままに汚れに陥っていることも書いています。

そしてカナン之地においても、同じように忌まわしい風習がありました。カナン文明も同じく、とても発達しており、その乱れた姿と両立していたのです。

こう見ていくと、現代文明も変わりません。いかに先進的、進歩的だと見られていても、実は古い風習の焼き直しでしかありません。同性愛の権利については、その基本的人権についてはもちろん保護されるべきですが、欧米では、人の前で、幼い子供の前でも性器を露出した変態行為をパレードの中で行っています。日本に対して、女性差別発言として元首相を批判するドイツは、今は、トプレスの女性を公共のプールで許す動きが出ています。胸を隠すことを求めることが、なぜ差別なのでしょう？気が狂っていますね。小児愛者の人権についても、イギリスなどで語られています。今、世界で児童の人身売買がはびこっていますが、そうした者たちに対する人権など語っているのです。自分たちが人権意識について文明的で先進的だと誇っていても、実は古代のギリシアやローマではびこっていた習慣に戻ってきているにしか過ぎません。日本に入って来ないことを願いますが、時間の問題でしょう。

ところで、慣わしというのは、力があります。長年続いてきたものであり、生活に根付いており、習慣化していますから、それに倣わないというほうが難しいです。そこで、自分が新しく生まれた、ということをおぼえ出す必要がありますね。イスラエルの子らが、父なる神のものになっているように、私たちはキリストにあって、御霊によって神の子どもになりました。すでに、世のものではなく、贖い出されて、新しい人になりました。だから、地上にある慣わしではなく、主の命じられているところに生きることに専心するのです。

<sup>4</sup>わたしの定めを行い、わたしの掟を守り、それらの中にあつて歩まなければならない。わたしがあなたがたの神、主である。<sup>5</sup>あなたがたは、わたしの掟とわたしの定めを守りなさい。人がそれらを行うなら、それらによって生きる。わたしは主である。

私が、キリストへの信仰をもって、心の中に葛藤がありました。それは、日々、祈って、日々、聖書を読み、そして週ごとに集まって、礼拝しなさいという勧めでした。祈りや信仰心といったら、年に一度、初詣にお賽銭を投げておしまいというのが、自分の考える信仰心だったからです。けれども、だんだん、自分が新しく生まれた者で、新しく生まれたのだから、新しい歩みをしていることが分かってきました。日々の歩みが、主のみことばによって定められ、支えられていくことが分かってきました。

そして、ここで主は、「人がそれらを行うなら、それらによって生きる。」と言っていますね。これは、次から見て行く性的な乱れの事例を見れば、これで長く生きられるとは思えないと思うでしょう。性病や他の感染症で早死にしてしまうのではないかとと思います。神の律法は、イスラエルの民を生かし、幸いを得ることを目的にしていました。

しかし、パウロは、深堀をして、それでも律法には限界があることを教えています。「ガラ 3:12-13 律法は、「信仰による」ではありません。「律法の掟を行う人は、その掟によって生きる」のです。キリストは、ご自分が私たちのためにのろわれた者となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。「木にかけられた者はみな、のろわれている」と書いてあるからです。」そうです、イスラエルの民はその後、律法を自分たちの行いで守りませんでした。これから読んでいく忌まわしい性行為も、イスラエルの中でも見られるものになりました。キリストがおられてこそ、4節と5節の命令は生かされます。この方が内に住まれて、それで初めて神の命令を行うことができるのです。心が罪の汚れがきよめられて、新しくされて、その新しい心でこそ、初めて主にお従いすることができます。

## **2A 近親相姦 6-18**

### **1B 家族の女 6-11**

<sup>6</sup> だれも、自分の肉親の者に近づき、相手の裸をあらわにして交わってはならない。わたしは主である。

裸を露わにして交わる、というのは性行為の婉曲表現です。肉親の者に近づく、つまり近親相姦のことを指しています。先ほど言いましたように、これは架空のまれな話ではなく、エジプトでは普通に行われていたこと、慣わしになっていました。

<sup>7</sup> 父の裸をあらわにすること、すなわちあなたの母の裸をあらわにすることをしてはならない。彼女はあなたの母である。彼女の裸をあらわにしてはならない。<sup>8</sup> あなたの父の妻の裸をあらわにしてはならない。それは、あなたの父の裸をあらわにすることである。

自分自身の母と寝ることです。自分にとって最も近い女性です。しかし、その近しさは、母であるということ、また父の妻であるということから来ているのであり、性的な近しさであっては決してならないのです。そして8節の「父の妻の裸」とは、当時は一夫多妻制であったので、必ずしも自分の母とは限らないので、こう言っています。ヤコブはラケルとレアの二人の妻がいましたね。そして、ヤコブの長男ルベンは、妻ではありませんが、父の側女ビルハと寝ました。

ここで「父の裸をあらわにする」とありますが、家族というのが、自然な結びつきがあります。そこには家族愛があり、絆があります。その家族愛のところに、男女の性愛による結びつきが入って

くれば、その家族の結びつきが壊されてしまいます。パウロは、霊の家族においても同じことを語っていましたね。「Ⅰテモ 5:1-2 年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人には兄弟に対するように、年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。」

そして、もう一つ大事なものは、妻はその夫と同じ体、一体なのだということです。だから、妻と寝れば、その夫と寝ることになるのだということです。性行為はそのように、肉体的に一体になることだけではないのです。心身また霊肉は密接につながっており、肉体で行ったことは、心や霊においてもつながります。「Ⅰコリ 6:15-16 あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだはキリストのからだの一部なのです。それなのに、キリストのからだの一部を取って、遊女のからだの一部とするのですか。そんなことがあってはなりません。それとも、あなたがたは知らないのですか。遊女と交わる者は、彼女と一つのからだになります。「ふたりは一体となる」と言われているからです。」

聖書で知ることのできる性行為、神が祝福している性行為は、男女の結婚によるものです。「創世 2:24 それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」この一体という言葉、神はご自身が唯一であると宣言される言葉に使われおられます。つまり、男女が一体になるところに、三位一体の神ご自身の一体性が反映しているのです。イエス様が、ご自身と父は一つだと言われた、あの一体性です。そして、その一体性は、契約と愛によるものであり、そこなわれることのないものでないです。ですから、神はこれを聖なるものとみなしておられます。結婚における男女の性行為を聖なるものとみなしておられます。これを守るために、他の行為から離れるように命じておられます。

<sup>9</sup> あなたの姉妹は、あなたの父の娘でも母の娘でも、あるいは、家で生まれた女でも外で生まれた女でも、その裸をあらわにしてはならない。<sup>10</sup> あなたの息子の娘、あるいはあなたの娘の娘の裸をあらわにしてはならない。彼女たちの裸は、あなた自身の裸だからである。<sup>11</sup> あなたの父の妻があるあなたの父に産んだ娘は、あなたの姉妹なのだから、彼女の裸をあらわにしてはならない。

家の中にいる女として、自分の姉妹がいます。これが、同じ母から生まれた娘、つまり姉妹であっても、違う母から生まれた娘、つまり半姉妹であっても、姉妹は姉妹であります。ダビデの息子アムノンが、同じ母ではない違う母から生まれたタマルを凌辱しましたが、まさにここに当てはまります。妹としてのつながりが、やや薄れていますから、余計に性的な対象としてみてしまったのでしょう。しかし、神は、家族を守るためにそれは決してしてはならないと言われます。そして、どんな形で生まれていたとしても、たとえ家の外で生まれた女であっても、家の中で一緒に過ごし、娘として育てられているのであれば、姉妹であり、彼女と寝てはなりません。

さらに、家の中にいる女としては、孫娘がいます。息子の娘、娘の娘がいます。その子たちと寝ることは、自分自身の裸だと言っています。分かりますね、家族として一つにされており、その家族にしたことは自分自身にしたことと同じだよ、ということなのです。キリストのからだと同じですね、他の兄弟や姉妹にしたことは、直接に自分自身に響いてきます。

### 2B 親の姉妹 12-13

<sup>12</sup> あなたの父の姉妹の裸をあらわにしてはならない。その人はあなたの父の肉親である。<sup>13</sup> あなたの母の姉妹の裸をあらわにしてはならない。その人はあなたの母の肉親だからである。

父の姉妹、母の姉妹、つまりおばです。少し関係が薄れますが、それでも父や母とのつながりがあるのですから、関係を持つてはいけません。

### 3B 兄弟の妻 14-18

<sup>14</sup> あなたの父の兄弟の裸をあらわにしてはならない。その妻に近づいてはならない。その人はあなたのおばである。<sup>15</sup> あなたの嫁の裸をあらわにしてはならない。その人はあなたの息子の妻である。彼女の裸をあらわにしてはならない。<sup>16</sup> あなたの兄弟の妻の裸をあらわにしてはならない。彼女の裸は、あなたの兄弟自身の裸である。

ここは、さらに関係が薄れます。父の兄弟の裸とありますが、つまり妻のことです。おじさんの奥さんも、自分の直接のおばさんと同じように、おばなのです。結婚によって、おじさんと一つになっている人です。だから、寝てはいけません。同じように、自分の息子の妻、つまり嫁も手を出してはいけません。息子と一つになっている人です。

それから、同じように兄弟の妻と寝てはいけません。けれども、ここで思い出すのは、ヘロデ・アンティパスが、ヘロディアを妻にしていたことです。ヘロディアは、兄弟ヘロデ・ピリポの妻でした。彼と離縁させて、それでアンティパスは自分のものにしました。そこで、バプテスマのヨハネは、子の律法に基づいて、ヘロデ・アンティパスに罪を指摘したのです。

<sup>17</sup> あなたは女とその娘の裸をあらわにしてはならない。また、その女の息子の娘、あるいはその娘の娘を妻として、その裸をあらわにしてはならない。彼女たちはあなたの肉親であり、これは淫らな行為である。

これは、すでに娘のいる女と結婚して、その娘とも寝るということです。母と子が同じ男の妻にさせるような状況です。さらに、その女には、すでに孫までがいて、その孫娘と共に妻として迎えるということです。母と娘、または母と孫娘が同じ夫を持つようなことは、あってはならないということです。「彼女たちはあなたの肉親」と主は言われています。すでに妻とした時に、血はつながっていません。

も、肉親なのです。

<sup>18</sup> あなたは、妻が活着ている間にその姉妹を妻とし、その裸をあらわにして妻を苦しめてはならない。

ヤコブが、ややこれに当てはまるでしょう。ラケルを妻として、それからレアを妻としました。それで、二人の間に激しい嫉妬が起こり、子を産む競争が起こりました。

このようにして、一夫多妻制のある社会で、近親相姦を防ぐ戒めを主は与えられました。いろいろな事例を挙げておられますが、それは、いろいろな事例があるからですね。主は、イスラエルの子らを気にしておられて、すべてのことに寄り添って下さり、いけないことを教えておられます。

私たちは新約時代に活着ています。つまり、イエス様によって、隣人を愛するというのが律法のみとめであると教えられています。隣人を愛することを知っていれば、肉親と性行為を持つことが、いかに家族のきずなを痛めるのかを知っています。「ロマ 13:9-10 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。」

### **3A 身を汚す風習 19-23**

ここまでが、近親相姦についてでしたが、その他の、避けなければいけない性行為について、主が教えられます。

#### **1B 女による汚れ 19-21**

<sup>19</sup> あなたは、月のさわりで汚れている女に近づいて、彼女の裸をあらわにしてはならない。

私たちは既に、月のさわりの期間は、女は汚れる、不浄の期間であることを学びました。その期間に女に近づいてはいけない、ということです。そして医学的にも危険です。感染症にかかったり、子宮内膜症にかかるかもしれません。これも、一言、妻を愛していないことに他ならず、妻を愛しているのであれば、控える選択をするでしょう。

<sup>20</sup> また、自分の同胞の妻と寝て交わり、彼女によって自分を汚してはならない。

これは、いわゆる人妻のことです。しかも、同胞、同じイスラエル人の妻です。では、異邦人はいいのか？いいえ、違います。けれども、同じ仲間なのにこうした裏切り行為をすれば、その全体が傷つきます。イスラエル人の共同体に悪影響を及ぶのです。

これは、教会でも同じです。性的な罪は私的なこと、プライベートなことだから、干渉してくるなど、罪を犯している本人は思います。しかし、そんなことでは決してありません。その不従順は必ず、周りの人々を傷つけるのです。先ほど読んだ、テサロニケ第一 4 章には、性的な罪によって、「兄弟たちを踏みつけたり欺いたりしないことです。(6 節)」とありました。

<sup>21</sup> また、自分の子どもを一人でも、火の中を通してモレクに渡してはならない。あなたの神の名を汚してはならない。わたしは【主】である。

モレクは、アンモン人から伝わった神です。幼児を犠牲の供え物として受け入れる快樂の神です。腕があり、そこに赤子を載せ、火を付けて熱します。これらはみな、望まぬ妊娠をしたときの子供を処理する方法、つまり当時の墮胎だったのです。これが神の名を汚します。神にとっては、母の胎にいる時から、その子はいのちある存在なのです。その子を殺すことは、主の御名を汚すことであります。

しかし、後に、ユダの王が行いました。アハズとマナセです。それで、主はユダを滅ぼすことをお決めになりました。それだけ神は、この行為を軽くみておられませんでした。

## 2B 道ならぬこと 22-23

<sup>22</sup> あなたは、女と寝るように男と寝てはならない。それは忌み嫌うべきことである。

神にとって、性行為とは男と女が結ばれて、つまり結婚において結実することです。雅歌を読めば、男と女が性において魅かれて行き、結婚によって結実し、夫婦生活において成熟していく姿を描いています。これが神の創造の秩序です。男女間の姦淫も、神の名を汚しますが、男と男が寝ること、同性愛は、神の創造の秩序に反することであり、忌み嫌うことなのです。

これは、旧約時代の律法であって、今の時代には当てはまらないという解釈があります。これは間違いです。主イエスが、離婚について問われた時に、創世記にある男と女の結びつきを取り上げられ、神が結びつけたものを切り離してはいけなと言われてましたが、主にとって、男女の結婚こそが唯一の、神に祝福された結びつきであることを語っておられます。主はユダヤ人との間で語られていますので、ユダヤ人たちには同性愛は論外でしたから、話題にさえ上がっていません。

そしてパウロは、異邦人宣教をしている中で、ギリシア・ローマ社会の中で、エジプトやカナンと同じように同性愛行為が普通に行われていました。それで、はっきりと男と女の間での結びつきのみが神の定められたものであることを踏まえて、いくつかの箇所でも同性愛行為が罪であることを述べています。例えば、ロマ 1 章です。「1:26-27 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、彼らのうちの女たちは自然な関係を自然に反するものに替え、同じよう

に男たちも、女との自然な関係を捨てて、男同士で情欲に燃えました。男が男と恥すべきことを行い、その誤りに対する当然の報いをその身に受けています。」

しかし、ここでバランスが必要です。現代社会の中で、LGBT のことが世界的な問題になっています。それで、この行為のみが罪として取り上げられてしまいがちです。律法に断罪されて、新約聖書の中でも罪であると、明らかにされているものは他の数多くあり、私たちはややもすると、一つの罪ばかりを取り上げて、パリサイ派の人たちと同じように他の罪を犯しているようなことしてしまいます。ぶよはこして呑むが、らくだを呑み込んでいる、というようなことをしてしまいます。

福音は、すべての人を救うイエス・キリストです。ここに書かれている、いろいろな性的罪を犯している人々も、神は愛しておられます。福音書で、カナン人の女が、呪われた民とされている女が、その信仰によって、イエス様に自分の娘を癒やしていただいています。

<sup>23</sup> 動物と寝て、動物によって身を汚してはならない。女も、動物の前に立って、これと交わってはならない。それは道ならぬことである。

獣姦です。エジプトの風習にこれはありましたし、今も存在します。主の忌み嫌う度合が、強まっていることにお気づき下さい。男と男が寝るのは、忌み嫌うと言われていますが、ここでは「道ならぬこと」と言われています。

#### **4A 吐き出す地 24-30**

<sup>24</sup> あなたがたは、これらの何によっても身を汚してはならない。わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている異邦の民は、これらのすべてのことによって汚れていて、<sup>25</sup> その地も汚れている。それで、わたしはその地をその咎のゆえに罰し、その地はそこに住む者を吐き出す。

土地が汚れる、と言われていますね。これはちょうど、あるところに人々が住み、汚染が進み、それを阻むために人々を追放するというような考えです。土地が汚されるという主の思いは、殺人についてカインの時から語っておられました。「創 4:10-11 いったい、あなたは何ということをしたのか。声がする。あなたの弟の血が、その大地からわたしに向かって叫んでいる。今や、あなたはのろわれている。そして、口を開けてあなたの手から弟の血を受けた大地から、あなたは追い出される。」土地が流血を受けたので、カインを追い出さないと言っています。

主は、ご自分がご自分の民に住まわせると誓った土地が、これらのものによって汚れていることを知っておられました。すでにアブラハムについて、アモリ人のことについてこう言われていました。「創 15:16 そして、四代目の者たちがここに帰って来る。それは、アモリ人の咎が、その時まで満ちることがないからである。」主は忍耐しておられました。しかし、今、アブラハムから数えて四

代目に近づいており、それで、そこに住む住民を吐き出すとお決めになっているのです。これが、イスラエルが約束の地に入った時に、彼らを一人残らず聖絶しなさいと命じられた理由です。

イスラエルの考古学の発掘で、カナン時代における、幼児の遺骨がどんどん出てくることがありました。家の壁や柱に幼児が使われる、文字通りの人柱が発掘されました。その考古学者の一人がこういったと言われています。「なぜ、神はもっと早くカナン人を滅ぼさなかったのか。」ヨシュア記だけを見ると、主は虐殺を正当化していると見えます。しかし、主は忍耐しておられ、時が満ちた時に、イスラエルを通して正しい裁きを行われたのです。

<sup>26</sup> あなたがたは、わたしの掟とわたしの定めを守らなければならない。この国に生まれた者も、あなたがたの間に寄留している者も、これらの忌み嫌うべきことを一つも行わないようにするためである。<sup>27</sup> それは、あなたがたより前にいたその地の人々が、これらすべての忌み嫌うべきことを行い、その地が汚れたからであり、<sup>28</sup> あなたがたがその地を汚し、その地が、あなたがたより前にいた異邦の民を吐き出したように、あなたがたを吐き出すことのないようにするためである。

主はえこひいきをなさいません。もし、今度はイスラエルの子らがこれらのことを行ったら、この地から彼らが吐き出されることとなります。列王記第二を開いて見ます。そこには、「21:6 また、自分の子どもに火の中を通らせ、ト占をし、まじないをし、霊媒や口寄せをし、【主】の目に悪であることを行って、いつも主の怒りを引き起こしていた。」とあります。それで主はお決めになりました。

11 「ユダの王マナセは、これらの忌み嫌うべきことを行い、実に彼以前にいたアモリ人が行ったすべてのことよりもさらに悪いことを行い、その偶像でユダにまで罪を犯させた。12 それゆえ、イスラエルの神、【主】はこう言われる。見よ、わたしはエルサレムとユダにわざわいをもたらす。だれでもそれを聞く者は、両耳が鳴る。13 わたしは、サマリアに使った測り縄と、アハブの家に使った重りをエルサレムの上に伸ばし、人が皿をぬぐい、それをぬぐって伏せるように、わたしはエルサレムをぬぐい去る。14 わたしは、わたしのゆずりの民の残りの者を捨て去り、彼らを敵の手に渡す。彼らはそのすべての敵の餌食となって奪い取られる。15 それは、彼らの先祖たちがエジプトを出た日から今日まで、わたしの目に悪であることを行って、わたしの怒りを引き起こしたからである。」

主がここレビ記で語られている通りになりました。

<sup>29</sup> だれであれ、これらの忌み嫌うべきことの一つでも行う者、それを行う者は自分の民の間から断ち切られる。

土地が彼らを吐き出すことのないように、その前に忌み嫌うべきことを行う者が断ち切られない

といけません。毒が体全体に回る前に、その毒でやられている部分を切除する手術のようなものです。このことについて、教会でも戒規と呼びますが、内部を裁かなければいけない時があります。「Iコリ 5:11-13 私が今書いたのは、兄弟と呼ばれる者で、淫らな者、貪欲な者、偶像を拝む者、人をそしる者、酒におぼれる者、奪い取る者がいたなら、そのような者とは付き合ってはいけない、一緒に食事をしてはいけない、ということです。外部の人たちをさばくことは、私がすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。外部の人たちは神がおさばきになります。「あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。」そして、取り除かれた人が救いを失うということではなく、むしろ悔い改めて救われるように、取り除きます。その人が悔い改めて、回復するように。そして教会が、パン種で全体が汚されることのないようにします。

<sup>30</sup>あなたがたは、わたしへの務めを果たし、あなたがたより前に行われていた忌み嫌うべき掟を決して行わないように、またそれによって身を汚さないようにしなさい。わたしはあなたがたの神、主である。」

このように、性についての汚れについて、主は厳しく対処されます。新約聖書でも同じです。ユダヤ人の中で動かれていたイエス様も、このことに取り組まれましたが、それ以上に異邦人の世界、エジプトやカナンの慣わしと変わる事のない習慣のあった、ギリシア・ローマ社会の中で宣教をしていたパウロたちは、これら肉の行いに対する神の御怒りを、はっきりと語っていました。

罪を犯してしまった人には、神の憐れみがあります。悔い改めて、その罪を捨て、神に立ち替えば、その罪を拭い取ってくださいます。すべての人が救われるに値するので、私たちは性的罪を犯した人にも、同じように神が愛しておられることを知らないといけません。しかし、それは、その罪が軽いことを意味していません。主が、人の情欲についても、それを十字架に付けてしまったとガラテヤ書には書いてあります。神の御子の死という対価があって、初めて罪が清められます。